

カーボンニュートラルを実現する、夢のエネルギー源。  
環境メガトレンド投資の大本命

ワンポイント  
One Point

# 水素

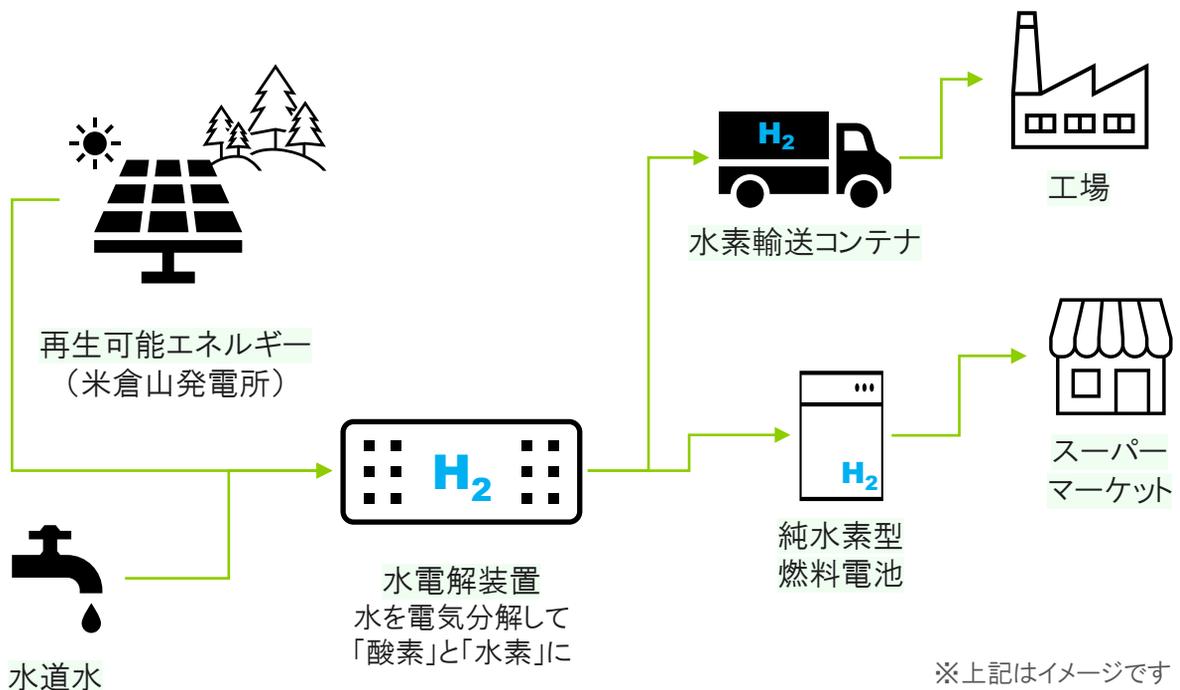
nikko am  
Nikko Asset Management

vol.9

## 水素エネルギー事業のトップランナー、山梨県

山梨県は、2009年に全国で初めて「ゼロカーボンシティ」を宣言するなど、脱炭素を成長産業に位置づけて、産学官民で連携しながら水素・燃料電池の集積地「やまなし水素・燃料電池バレー」の実現を目指しています。

2021年6月には、東京電力ホールディングスや東レ、東光高岳と連携し、再生可能エネルギーを使って二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を排出せずに製造・貯蔵したグリーン水素を活用する「P2G(パワーツーガス)システム」の実証実験を開始しています。天気に左右される太陽光のエネルギーを水素に変換することで、雨天や夜間もエネルギーを安定供給できるようにする取り組みで、すでに、甲府市米倉山(こめくらやま)の施設で製造したグリーン水素が、工場やスーパーに輸送され、工場ではボイラーに、スーパーでは燃料電池で発電して照明やレジの電力の一部として使われ始めています。



# ワンポイント One Point 水素

また、燃料電池(FC)を搭載した電動アシスト自転車の実用化に向けた実証実験も進んでいます。山梨県内の企業などが水素・燃料電池事業を推進するため設立した一般社団法人「FCyFINE PLUS」(エフシーファイン・プラス)が開発した燃料電池自転車は、通常のバッテリータイプと比べ容量が大きく、2倍以上の約100キロメートルの走行が可能です。

長崎幸太郎知事は「水素エネルギーのトップランナーとして先導していきたい。今後、P2Gシステムをグローバルに展開したい」と語り、中東諸国に技術を売り込む考えも明らかにしています。我が国における水素エネルギー事業のトップランナー、山梨県に引き続き大きな注目が集まります。

■従来の電動アシスト自転車



従来の**2倍以上**、  
約**100km**の走行  
が可能！



■燃料電池(FC)搭載の電動アシスト自転車

※上記はイメージです

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。